

# 令和5年度 京都市小学校 NIE 実践研究会 活動計画

## 1. 研究テーマ

「主体的に新聞とかかわり、新聞と対話することで、学びを深める子どもの育成」

### 【課題設定の理由】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、本研究会では、「情報活用能力」の育成をめざしていくことが、最重要課題であると考え。子ども自らが新聞を手に取り、新聞と向き合うことで、自分の《問い》をもち、その解決に向けて取り組んでいくことこそ、主体的な学びを創造していくことになる。また、GIGA スクール構想の下、これまでの教育実践と ICT を効果的に融合させることで、より質の高い情報活用ができると考え。今後も NIE 研究会の活動の果たす役割はたいへん大きいと思われ、この研究テーマを設定した。

## 2. 活動目標

「令和6年度全国大会開催に向けての組織力・実践力の構築」

### 【目標設定の理由】

令和6年度の全国大会に向けて、研究会のつながりを大切にしながら、より良い子どもたちの成長を願って進めている研究活動を引き継いで繋いでいきたい。また、質の高い研究活動を行うために必要な研究会員の実践力を高め、2年後に全国大会を運営できる力量をつけることが、研究会活動のみならず、会員の所属校、さらには全市にその成果を還元していくことにつながると考え、この目標を設定した。

## 3. 今年度のおもな活動内容

○授業研究会(公開授業)・・・年1・2回

○研究冊子の作成

令和4年度と5年度の2カ年計画で「指導案集」と「ワークシート集」を作成予定。

令和4年度は、それぞれ、2部ずつ作成。完成予定の令和5年度には、それぞれ10部ずつの資料が集まるよう、個人の実践と、グループでの実践を進めていきたい。



## 4. 活動計画

6月に、総会を集合研修にて行い、各部役員等の承認を得る。また総会終了後より、各部の活動計画を立て活動を行う。

※令和5年度も、チームスやホームページを活用し、交流を深めます。



5. 研究組織と業務・役割 【役員20名 研究員26名】

	総括	国語科・外国語科 研究部	社会科・生活科・ 総合的な学習の時 間研究部	道徳科・特別活動 研究部
助言 相談役	顧問 松本校長 会長 藤田校長	副会長 山根校長 副会長 今西校長 副会長 八木教頭	副会長 林校長 副会長 出口校長 副会長 小林教頭 副会長 鈴木教頭 副会長 橋本教頭	副会長 山田校長 副会長 内野教頭
リーダー	研究部長 西村教諭	研究副部長 藤原教諭	研究副部長 久林教諭	研究副部長 村田 主幹教諭
研究員	総務部長 高熊教諭 庶務部長 永田教諭 事業部長 古田教諭 会計 小西教諭	竹の里小 本郷先生 桂徳小 長谷川先生 唐橋小 木村先生 羽束師小 高橋先生 羽束師小 西尾先生 羽束師小 山本先生 羽束師小 吉田先生 羽束師小 文元先生	御所南小 米谷先生 桃山小 大野先生 藤ノ森小 本田先生 付属桃山小 宮川先生 羽束師小 須賀先生 羽束師小 吉田先生 羽束師小 伊藤先生 羽束師小 河内先生 羽束師小 吉田満先生	九条塔南小 三橋先生 伏見住吉小 岩下先生 小栗栖宮山小 沖先生 桂川小 関本先生 砂川小 徳地先生 上里小 井上先生 羽束師小 大窪先生 羽束師小 齋藤先生 羽束師小 中西先生 羽束師小 吉崎先生
主な 業務	・研修の企画・運営 ・企画・連絡・調整 ・役員会運営 ・小教研との連携 ・フォルダ管理 ・会費の管理・運用 ・ホームページ作成 ・通信作成	国語科・外国語科を 中心とする新聞を活 用した授業づくりの研 究 ・授業力 up 研修会 ・授業研究等	社会科・生活科・総合 的な学習の時間を中 心とする新聞を活用 した授業づくりの研 究 ・授業力 up 研修会 ・授業研究等	道徳科・学級活動を 中心とする新聞を活 用した授業づくりの研 究 ・授業力 up 研修会 ・授業研究等
活動の 詳細	庶務係 ・会員募集・連絡 ・研修参加集約等 ・通信発行(取材・作成) を複数人で分担する。 ・印刷・全市配付等 会計係 ・委託金会計 ・会費運用 ・懇親会	部会ごとにテーマを 決めて、チームスを活 用しながら研究に取り 組む 授業研究会(公開授 業)に向けての企画 立案・実施等 小教研の授業力 up 研修会なども必要に 応じて実施	部会ごとにテーマを 決めて、チームスを活 用しながら研究に取り 組む 授業研究会(公開授 業)に向けての企画 立案・実施等 小教研の授業力 up 研修会なども必要に 応じて実施	部会ごとにテーマを 決めて、チームスを活 用しながら研究に取り 組む 授業研究会(公開授 業)に向けての企画 立案・実施等 小教研の授業力 up 研修会なども必要に 応じて実施